

花粉症患者動向調査（世田谷区内クリニック）

浅香耳鼻咽喉科クリニック 浅香大也

スギ・ヒノキ花粉シーズンに、世田谷区の浅香耳鼻咽喉科クリニックを受診した花粉症患者の受診状況を調査した。

1 調査期間

2025 年 1 月 6 日～2025 年 5 月 14 日

2 調査内容

（1）初診・再診患者数の変動

上記期間に来院したスギ・ヒノキ花粉症患者に対して、診療日ごとの初診患者数、再診患者数を集計し、飛散花粉数との関連性を検討した。

※ 初診・再診について

初診：調査シーズンにおける、症状が出てから初めての受診
（症状が出る前の初期治療としての受診は初診としない）

再診：初診としてカウントした後の受診

※ 飛散花粉数は、大田区のダーラム測定器で測定したデータを用いた。

※ 週計の期間は、患者数については月、火、木、金、土、飛散花粉数については日曜日～土曜日の合計数とした。

（2）飛散花粉数と初診時の自覚症状、QOL との関連性

（1）の患者に対し、全体の症状の印象について調査を行った。また、日本アレルギー性鼻炎標準QOL調査票を用いて初診時の自覚症状を検討した。

※ 初診時自覚症状と花粉数の相関に関する検討においては日曜日～土曜日の飛散花粉数の総和と月、火、木、金、土の患者の自覚症状の平均で検討した。

（3）舌下免疫療法の効果測定

スギ舌下免疫療法を施行中の患者 265 名のうち、日本アレルギー性鼻炎標準QOL調査票の記入に同意を得た患者 153 名について、自覚症状の検討を行った。調査票は、スギ花粉シーズン終了後の 5 月に LINE で問診票を送信し、今シーズンを振り返って最も症状のつらかった時期の症状を記入してもらった。比較対象として、当院を受診した花粉症患者のうち、花粉飛散ピークの週を 2 週抽出（3 月 17 日～30 日：第 12、13 週）し、その時期に受診した初診患者の問診結果を用いた。

3 調査結果

（1）患者数と飛散花粉数（表 1、図 1）

2025 年の大田の飛散花粉数の合計（スギ＋ヒノキ）は、4,866 個/cm²であり、前年の 9 割だった。スギ花粉の飛散数は 4,196 個/cm²であり、前年の 1.1 倍であった。総患者数は 1,209 名で、前年並みだった。内訳では、初診患者数が 1.1 倍、再診患者数が 9 割だった。2025 年の舌下免疫受診患者は 265 名であった。今年は大田区において 1 月 8 日という早期に一時的にスギ花粉飛散が観測された、その影響で 1 月の初診患者数の立ち上がりが例年よりかなり早く、受診総数の増加に

つながったと考える。

舌下免疫療法は4年間の継続治療を勧めているため、患者数は昨年の1.2倍であった。舌下免疫療法は、その有効性から希望者が昨年也多かったが、出荷調整中であったため施行例が1.2倍に留まった。本年秋頃より安定供給が予想されている。

表1 患者数と飛散花粉数

	2025年	2024年	2024年に対する 比率
飛散花粉数(個/cm ² /シーズン)	4,866	5,269	0.9
総患者数(初診+再診)(人)	1,209	1,189	1.0
初診患者数(人)	942	895	1.1
再診患者数(人)	267	294	0.9
舌下免疫療法を受けている患者数(人)	265	218	1.2
花粉飛散開始日	2月15日	2月14日	

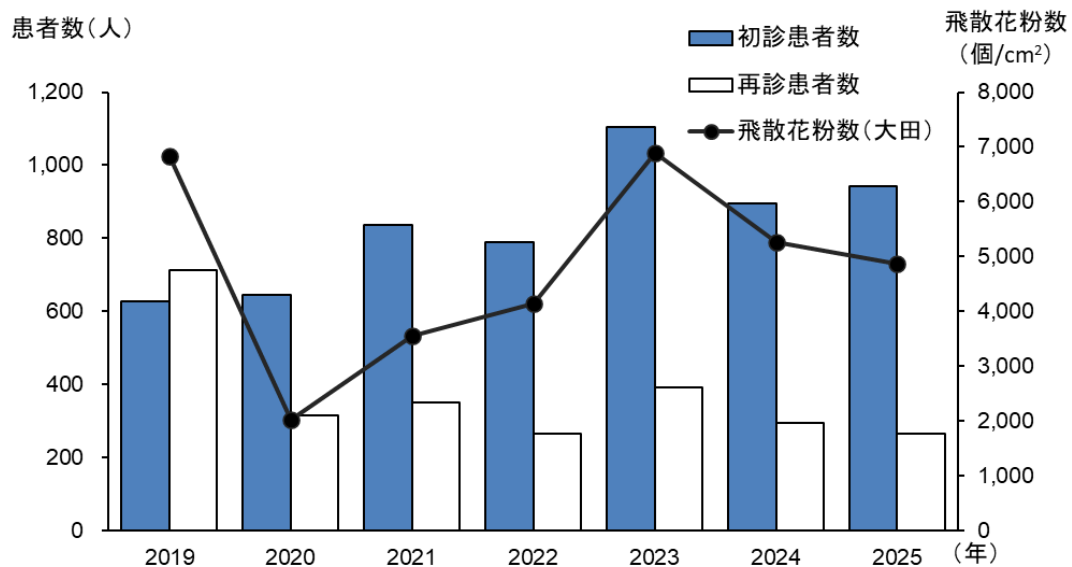


図1 患者数と飛散花粉数(2019年-2025年)

① 初診患者数の変動（図2）

- ・ 花粉の飛散開始日は2月15日で、前年と比べて1日遅かった。
- ・ 初診患者数の立ち上がり（30名以上／週）は、1月20日～1月26日（2025年第4週）であり、飛散開始日より3週間以上早かった。
- ・ ピークの時期は、3月3日～3月9日（2025年第10週）であり、前年（2月26日～3月3日 2024年第9週）と1週間遅かった。
- ・ 初診患者数のピークは131名であり、前年（141人）の9割だった。
- ・ 初診患者の立ち上がりからピークまでは6週間であり、前年（3週間）よりも3週間長かった。
- ・ 初診患者数のピークは大田区の総飛散花粉数のピークの約3週間前であった。

② 再診患者数の変動（図2）

再診患者数の立ち上がり（30人以上／週）は、3月10日～3月16日（2025年第11週）で、ピークは3月24日～3月30日（2025年第13週）だった。

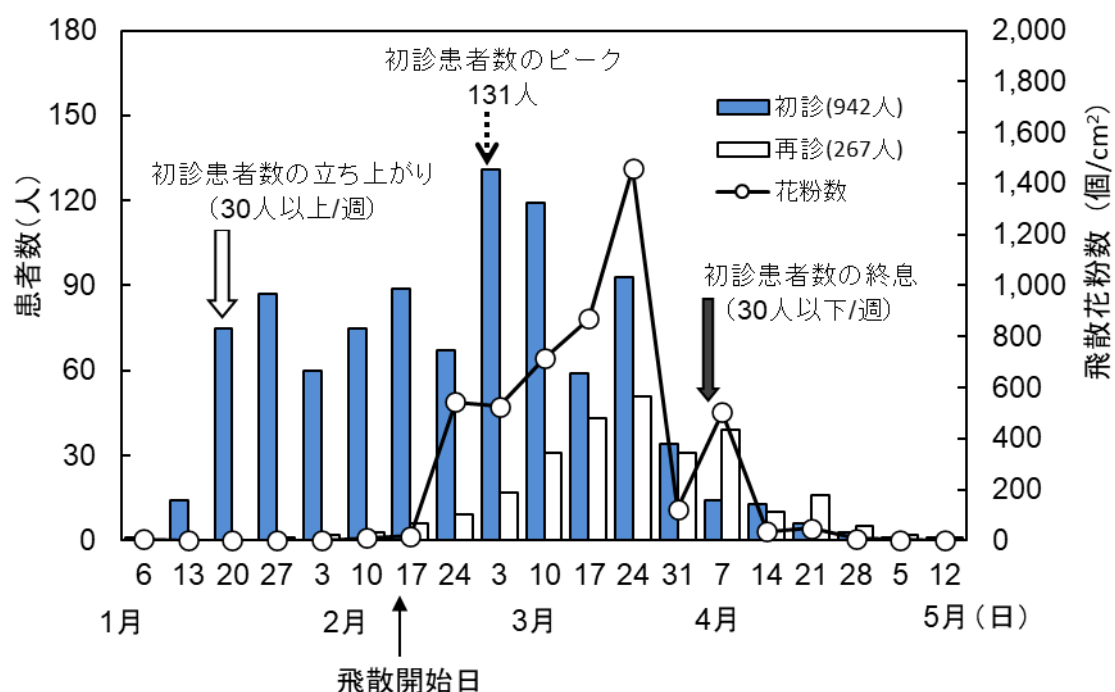


図2 週毎の患者数と飛散花粉数（2025年）

(2) 飛散花粉数と初診時の自覚症状、QOLとの関連性 (図3～図6)

自覚症状と花粉飛散数は例年通り有意に相関した ($R^2=0.58$)。総合症状スコアの平均が12点 (鼻、眼の自覚症状がすべて2点以上) を超えたのは、第11～14週 (ピークは12週) であり前年より1週間長く、4週間認めた。これは、花粉飛散ピークが前年より1週遅くなったのが影響したと考えられる。また、総合症状スコアが10点を超えた週は、全7週 (第9週～15週) と昨年より1週間長く、花粉飛散数の増加に伴って症状を強く訴える患者が多かった。QOLスコアの平均においても、花粉飛散数と有意に相関した ($R^2=0.53$) スコアのピークが第15週であり、花粉数の飛散ピーク時期より2週遅かった。

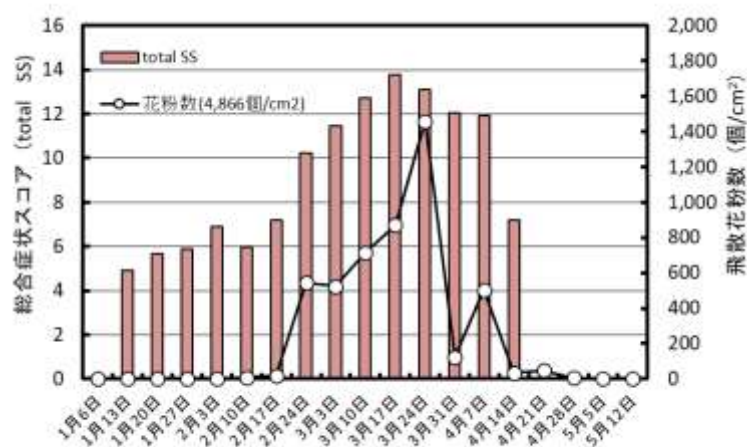


図3 週毎の飛散花粉数と総合症状スコアの平均 (2025年)

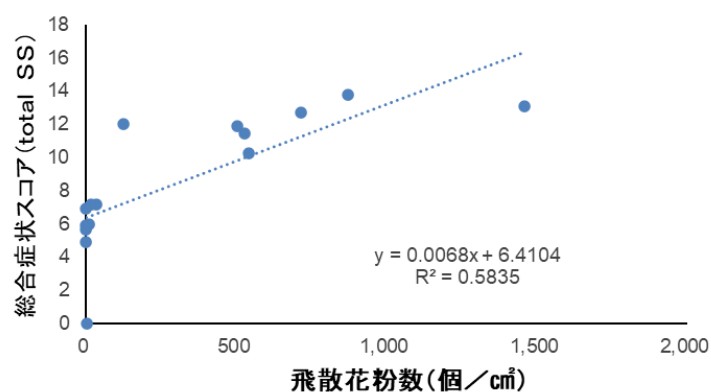


図4 週毎の飛散花粉数と総合症状スコアの平均との相関 (2025年)

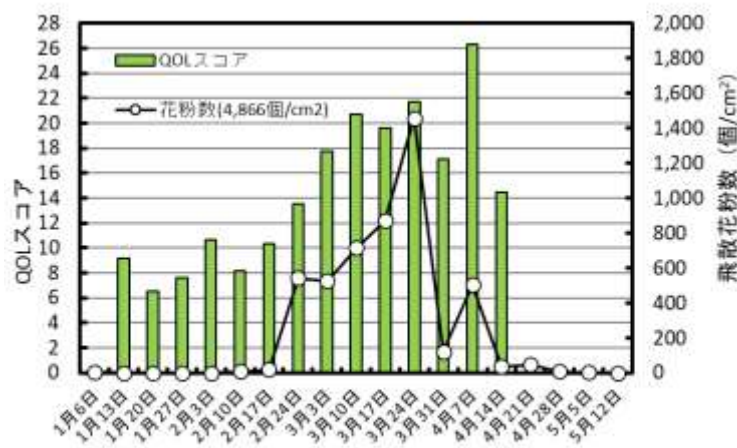


図5 週毎の飛散花粉数とQOLスコアの平均 (2025年)

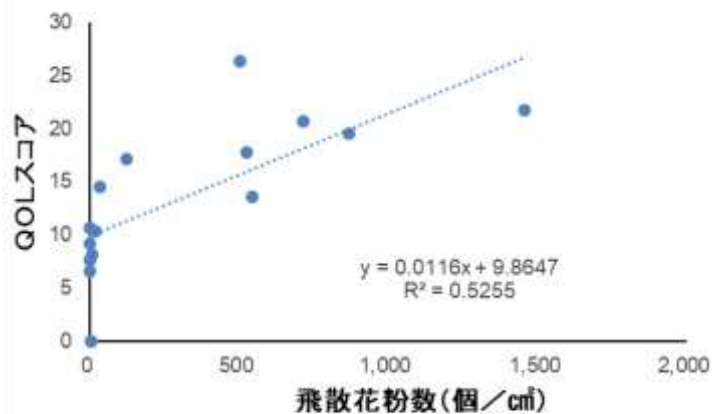


図6 週毎の飛散花粉数とQOLスコアの平均との相関 (2025年)

(3) 舌下免疫療法の効果について（表2、図7）

スギ舌下免疫療法施行群は飛散ピーク時に受診した初診患者群と比較して有意に自覚症状が抑制されており、舌下免疫療法の有用性が改めて示された。また、昨年と比較して舌下免疫療法施行群の自覚症状は高い傾向を認めた（5.70）。これは今年のスギ花粉飛散量が昨年と比較して多かったためと考えられる。花粉飛散ピーク時における舌下免疫療法施行患者の自覚症状もスギ花粉飛散数の影響を受けるが、その変動幅が少ない可能性があり、今後データの蓄積が必要と考える。

表2 花粉飛散数と舌下免疫治療群の自覚症状

	2025年	2024年	2023年
花粉飛散数(スギ+ヒノキ) (個/cm ²)	4,866	5,269	6,884
花粉飛散数(スギ) (個/cm ²)	4,196	3,819	5,442
スギ舌下症状	5.70	5.33	5.82
飛散ピーク時の症状	13.40	13.37	12.91

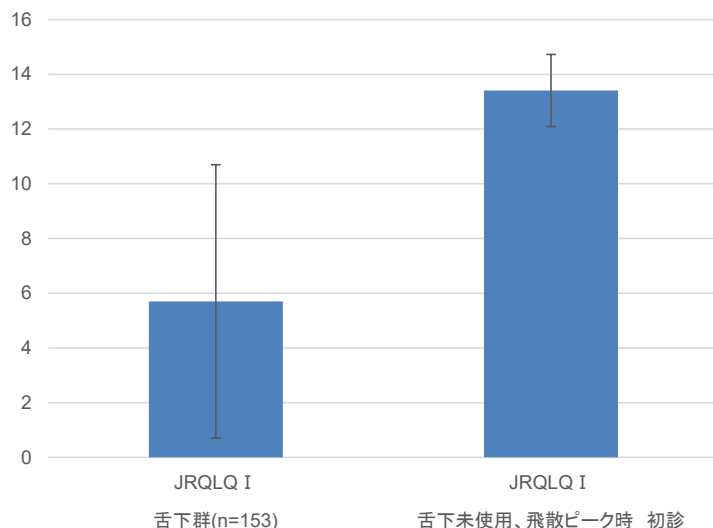


図7 舌下免疫療法群と花粉飛散ピーク時に受診した初診患者群の比較

4 まとめ

- ・2025年の花粉症総患者数は1,209名で、前年並みだった。内訳では、初診患者数が1.1倍、再診患者数が9割だった。
- ・初診患者数のピークは131名で、前年（141人）の9割だった。
- ・総合症状スコアの平均が12点（鼻、眼の自覚症状がすべて2点以上）を超えたのは、第11～14週（ピークは12週）であり前年より1週間長く、4週間認めた。また、総合症状スコアが10点を超えた週は、全7週（第9週～15週）と昨年より1週間長くなり、花粉飛散数の増加に伴って症状を強く訴える患者が多かった。
- ・スギ舌下免疫療法施行群は飛散ピーク時に受診した初診患者群と比較して有意に自覚症状が抑制されており、舌下免疫療法の有用性が改めて示された。花粉飛散ピーク時における舌下免疫療法施行患者の自覚症状もスギ花粉飛散数の影響を受けるが、その変動幅が少ない可能性があり、今後データの蓄積が必要と考える。